

街の元気 ● みんなの元気を応援します ●

VIVA city

ビバ
シティ

公益社団法人
石川県柔道整復師会

石整広報 121

VOL.
35

2025
September

第50回 定時総会を開催

役員選挙を実施、新年度の体制が固まる

公開学術講演会 開催

奥能登金剛遊覧船
巖門クルーズ

[柔道整復師倫理綱領]

国民医療の一端として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民俗医学として伝承してきたところであるが、限らない未来へ連綿として更に継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。

ここに柔道整復師は、その名誉を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓うものである。

- 1、柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁慈の心を以て人類への奉仕に生涯を貫く。
- 2、日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。
- 3、相互に尊敬と協力に努め、分をわきまえ法を守り、業務を遂行する。
- 4、学問を尊重し技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度を以て接する。
- 5、業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、信条、性別、社会的地位などにかかわらず患者の回復に全力を尽くす。

街の元気 ● みんなの元気を応援します ●

viva city

ビバ
シティ

公益社団法人
石川県柔道整復師会

石整広報121

VOL.
35

2025
September

C O N T E N T S

1 巻頭言

不易流行を心に留めつつ未来につながる道を探ろう ニッ谷 剛彦

2 第50回 定時総会を開催

5 令和7・8年度 役員・理事紹介

堂本義邦前副会長、山田俊志前理事退任のご挨拶

9 講演会／研修会

公開学術講演会

会員学術研究発表会

各講習会（「匠の技」技術講習会・機能訓練マニュアル講習会）

北信越学術大会 福井大会

15 会旗争奪少年柔道大会・少年形競技会

16 北信越ブロック柔道大会 福井大会

17 第31回 石川県柔道整復師協同組合通常総会を開催

18 サポート接骨石川（SSI）活動報告 金沢百万石まつり

20 secret spot 巖門クルーズ

21 トピックス

新入会員紹介

22 令和7・8年度 各部・各委員一覧

不易流行を心に留めつつ 未来につながる道を探ろう

能登半島地震・豪雨災害の被災者に 一日でも早く平穏な暮らしを

『ビバ・シティ』をご愛読者の皆様には、日頃より公益社団法人石川県柔道整復師会の活動にご理解ご協力を頂いておりますことに、厚く感謝申し上げます。

本年度は役員改選の年にあたり、5月に開催された第50回定時総会において、会長職を再任頂きました。改めて会務を遂行すべく、本会の舵取りを任される重圧を痛感しております。執行部一丸となって、柔道整復師業界の発展のために邁進していく所存でございます。

さて昨年は、元日の能登半島地震発生で大変な年明けとなり、それに追い打ちをかけるような9月の集中豪雨災害と、二度も大きな災害が発生しました。被災された方々の現状やお気持ちを考えますと心が痛むばかりです。復旧・復興に向けてインフラ等が整備され、一日でも早く平穏な暮らしを送ることができますようお祈りいたします。

「横綱 大の里」の誕生は 石川県民にとって希望の光

そのような中、令和7年5月28日、石川県民にとって明るいニュースが飛び込んできました。令和5年5月の初土俵からわずか2年で大きな夢を手にした、第75代横綱 大の里関の誕生です。初土俵から7場所目での幕内優勝は、幕下付け出しデビュー力士として、これまでの記録を持つ同郷出身の大横綱 輪島関の15場所目をはるかに上回り、史上最速となりました。その出世の速さに髪の毛の伸びが追いつかず大銀杏

■二ッ谷 剛彦

(ふたつや たけひこ)
(公社)石川県柔道整復師会 会長

【プロフィール】

平成17年より理事を務め、以来、事業部長、保険部長、金沢北支部長を歴任。平成27年4月に副会長に、令和5年5月に第12代会長に就任する。



を結えないまま大関に昇進し、大相撲界の記録を次々と塗り替えて横綱に昇進したのです。

横綱昇進の記者会見では、未だに能登半島地震により大変な状態が続いていることに触れ、地元石川県の被災者を気遣い、勇気付ける言葉を口にしていました。また、「唯一無二」の横綱を目指す力強く口上を述べる姿は頼もしく、その決意に石川県民だけでなく全国の大相撲ファンは大きな夢と期待を抱いたことでしょう。

会長再選に決意も新たに

改めて会長に再任され、柔道整復師としての技術や精神を継承しつつも、在宅ケア、福祉・介護サービス等の地域包括医療への参入にも力をいれながら、「不易流行」の言葉を心に留めたいと決意を新たにしております。

結びになりますが、県民の皆様が健康で安心して暮らせるよう本会会員一同、一層の努力をしていく所存です。今一度読者の皆様におかれましては、これまで以上のご理解とご協力をお願いいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

第50回

定時総会を開催

～役員選挙を実施、新年度の体制が固まる～

令和7年5月18日(日)、地場産業振興センターにおいて第50回石川県柔道整復師会定時総会が開催されました。今総会では、任期満了に伴う役員選挙が行われ、投票により新役員が選任されました。

1、開会の辞

堂本 義邦副会長

2、会長挨拶

二ツ谷 剛彦会長

今年は石川県柔道整復師会創立100周年の節目の年となり、11月9日に記念式典の開催を予定しています。会員皆様の参加をよろしくお願いいたします。



さて、高齢化が進み膨れ上がる医療費の負担を担う就業者が少なくなるという現実の中で、医療業界また柔道整復師業界を取り巻く環境も大変厳しくなっております。地域に根付いた役割を果たしてきた柔道整復師がその価値を高めていくために、この厳しい状況は職域拡大のチャンスでもあるように思います。

その一つが行政と話し合ってきた高齢の方々への取り組みであり、混合診療でなく患者さんが自費で行うフレイル予防を目的とした機能訓練を各施術所内で実施できるよう準備を進めています。将来は、このような取り組みの有効性を業界全体でデータ化してエビデンスを確立し、外傷の傷病のみならず健康長寿社会の中で柔道整復師の役割を理解して頂けるよう、行政との折衝を進めていく予定です。

医療を取り巻く環境は厳しいが、柔道整復師にとって職域拡大のチャンスでもあると二ツ谷会長。

第50回 定時総会

(9時 30 分開会)

総会員数／ 272 名
出席者数／ 84 名
委任者数／ 147 名
欠席者数／ 41 名

以前より無茶苦茶な広告宣伝を行っている無資格者や柔道整復師が問題になっていたため、昨年末に広告の制限がまとまりました。今後、問題の施術所を取り締まって頂けるよう行政に情報を提供していく予定です。

またもうしばらくすると、国家資格を持った柔道整復師と整体・リラクゼーションといった無資格者の違いが分かるようなコマーシャルが、SNSを通じてスマートフォンに流される予定です。厚生労働省の作成で、タップすると柔道整復師の業務内容が説明されます。現在、内容を精査中とのことで、楽しみにしててください。(要旨抜粋)

3、議長・副議長選出

議長に高出伸也会員(金沢南支部)、副議長に平林祐一会員(金沢北支部)を選出。



高出議長(左)、平林副議長が選出され、議案の審議が進められた。

4、議事録作成人・署名人の選出

作成人／山田 誠会員(能登支部)

署名人／坂田 浩之会員(金沢北支部)

河村 三紀会員(金沢南支部)



粛々と審議が進められ、次年度の事業計画、予算案が承認された。



審議を見守る顧問、監事の皆さん。

5、議案(審議事項)

①令和6年度事業実施報告に関する件

担当／川上 勝総務部長

②令和6年度収支決算報告並びに監査報告に関する件

担当／津田 佳之経理部長

津田経理部長の説明の後、大徳勇監事より監査報告があり、適正に会計処理が行われている旨報告された。

③役員報酬に関する件

担当／津田 佳之法制委員長

④役員選挙に関する件

担当／三国 政樹選挙管理委員長

中越 昌人選挙管理副委員長

三国政樹選挙管理委員長より、総会当日の投票及び期日前投票による選挙の結果、会長・副会長2名・理事11名、監事1名、日整代議員2名、日整補欠代議員2名の当選が報告された。

6、報告事項

①令和7年度事業計画に関する件

担当／川上 勝総務部長

②令和7年度予算に関する件

担当／津田 佳之経理部長

7. 閉会の辞

西川 典孝副会長

総会終了後、昨年度入会した山下泰明会員(金沢南支部)の紹介がありました。

また、6月28・29日に福井県で開催される北信越学術大会にて発表を行う高熊二夫会

員(加賀支部)が西剛志学術部長より、北信越ブロック柔道大会に出場する小倉弘行会員(金沢北支部)、窪田和樹会員(金沢南支部)が川上勝監督より紹介されました。



昨年度入会の山下会員が挨拶を行った。

北信越ブロック柔道大会出場選手



川上監督が小倉選手を紹介(窪田選手は当日欠席)。

北信越学術大会発表者

本会を代表して発表を行う高熊会員。



西学術部長が高熊会員の発表で座長を務める。

石川県接骨師連盟総会が 開催される

令和6年5月18日(日)午後1時より、石川県地場産業振興センターにおいて石川県接骨師連盟総会が行われました。議長に高出伸也会員、副議長に平林祐一会員を選出し、次の議題について審議が行われました。

【議 題】

1. 令和7年度事業実施報告に関する件
2. 令和7年度収支決算報告並びに監査報告に関する件
3. その他

各議題とも詳細な説明と報告があり、賛成多数にて承認されました。

なお、接骨師連盟総会には宮本周司参議院議員、佐々木紀衆議院議員秘書の道券正明氏、岡田直樹参議院議員秘書の丹後智浩氏がお見えになり、お三方よりそれぞれご挨拶を頂戴しました。

宮本周司参議院議員



岡田直樹参議院議員
(丹後智浩秘書)



佐々木紀衆議院議員
(道券正明秘書)



委任者を含む216名により
全ての議題が承認された。



石川県柔道整復師会の 新しいシンボルとして団体旗を制作 ～定時総会で掲揚し、会員に初披露～



第50回定時総会が会員への初お披露目となった(下写真は昨年12月の理事会)。

公益社団法人石川県柔道整復師会の理念や目的を象徴し、また組織としての一体感・連帯感を醸成するために団体旗を制作しました。

本会活動の公共性と信頼性をアピールするためのツールとして、令和7年11月に開催予定の「石川県柔道整復師会創立100周年記念式典」や令和8年に当県が主催する「北信越学術大会・北信越ブロック柔道大会」など、様々な式典や記念行事で掲揚していきます。

令和7年・8年度 役員紹介



会 長
二ッ谷 剛彦

本会の発展のため 力を尽くしてまいります

会員の皆さま及び『ピバ・シティ』をご愛読頂いている皆様には、日頃より公益社団法人石川県柔道整復師会の活動にご理解ご協力を頂き深く感謝申し上げます。

この度、第50回定時総会におきまして選任頂き、続く理事会にて令和7年度・8年度副会長として2期目の重責を務めさせて頂くことになりました。柔整業界は厳しい時代に入っておりますが、何より会員の日々の業務の改善を目指すとともに、県民の健康福祉の増進に寄与できますよう、努めていきたいと考えております。

本年は、本会の創立100周年、社団設立50周年を迎える重要な大変めでたい年です。秋



副会長
西川 典孝

にはそれを記念して「創立100周年・社団設立50周年記念式典 祝賀会」を開催いたします。また令和8年には「第46回日本柔道整復師会北信越ブロック柔道・学術大会 石川大会」の開催が予定されております。その際には皆さまのご協力をお願い申し上げます。

これからも執行部が一つになり、また会員とともに事業を遂行し、本会がますます発展していけるよう頑張るつもりです。

会員の皆さまには今後ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

節目の年に 新たな気持ちで

この度、第50回定時総会役員改選及び理事会にて副会長に選任されました。副会長職を担う重責に身が引き締まる思いであります。

総務部、経理部、学術部を統括し、二ッ谷会長、西川副会長のお力添えを頂きながら、各理事と事業に取り組んでまいります。

昨年の能登半島地震から1年半以上が経過しましたが、今も復興道半ばであります。今後とも会員同士が助け合い、石川県民の健康増進に寄与する組織であり続けるために努力してまいります。

本年は本会創立100周年、社団設立50周年の年にあたり、11月には「創立100周年・社団設立50周年記念式典 祝賀会」を開催します。また来年6月には「第46回日本柔道整復師会北信越ブロック柔道・学術大会石川大会」が予



副会長
津田 佳之

定されています。

執行部一丸となってこれらの事業を成功させ、創立200周年、300周年へとつなぐべく公益社団法人石川県柔道整復師会の発展のため邁進する所存です。

会員の皆様には今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年・8年度 理事紹介

今期にかける想い、決意をひと言で！
理事の皆さんに語っていただきました。

■前年度に引き続き、総務部長を拝命しました。総てのことに務め、会員の皆様のために有意義な活動ができるよう努力してまいりますので、会員の皆様のご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。



川上 勝
(金沢南支部)

■この度、4期目の理事に就任させて頂き、経理部長・総務副部長・IT委員長・能登支部長を拝命いたしました。初めての部長職と支部長ということで、身を引き締めて頑張りたいと思います。



山田 誠
(能登支部)

経理部長として適切な会計処理に努め、また総務副部長として部長を支え、本会のために職務を行いたいと思います。皆様のご指導ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

■本年も保険部長を拝命しました、真酒谷です。

近年、柔道整復療養費制度も様々な変化をしています。今後も、わかり易く丁寧な情報の発信と会員の皆様からのご相談に対する明解な回答を心がけてまいります。

また本会では記念式典や学会など大きな事業が続きます。就任した役員が一丸となって、成功に向けて尽力してまいりたいと思います。



真酒谷 清
(金沢北支部)

■この度、3期目となる学術部長を拝命いたしました西剛志です。

前年度は、文化・学術講演会、会員研究発表会に加え、匠の技講習会、機能訓練講習会と多くの事業を無事開催することができました。

これもひとえに、皆様からのご指導とご支援のおかげです。ありがとうございました。これからも、学術部に求められていることとしっかり向き合い、取り組んでまいります。

引き続き、ご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



西 剛志
(加賀支部)

監事



大徳 勇
(金沢北支部)

理事紹介

令和7年・8年度

■この度、事業部長を拝命しました中西です。初めて経験する事業部ですが、会長、副会長、理事、部員、事務局の皆様とともに協力をしながら、公益事業やSSI活動を無事に務め上げられるように努力する所存です。

本会の事業がより良いものになりますよう一生懸命励みますので、会員の皆様には今後ともご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



中西 勝
(金沢北支部)

■この度2期目の理事に就任させて頂き、広報副部長・事業副部長を拝命しました。

前期の経験を活かして、各部長・委員の方々と協力して本会事業を行い、会員の皆様のお役に立てるよう努力いたしますので、今後ともご指導、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



中川 渉
(金沢南支部)

■この度、令和7・8年度(公社)石川県柔道整復師会の広報部長を拝命いたしました森田です。本会の活動や取り組みを広く会員の皆さま、そして地域社会へと分かりやすく発信していく



森田 一哉
(加賀支部)

ことが広報部の使命だと考えております。まだまだ未熟ではございますが、会の発展に少しでも貢献できるよう精一杯努めてまいりますので、今後ともご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

■この度、3期目の理事に選任頂き、前期より引き続き学術副部長・事業副部長を拝命しました。今年度は創立100周年記念式典、来年度は第46回北信越ブロック学術大会石川大会が開催されます。本会の各事業が有益でより良いものとなるように、理事・部員・委員・事務局の皆さんとともに力を合わせ、与えられた仕事を遂行していきたいと思っております。



大平 和幸
(金沢北支部)

会員の皆様には引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い致します。



選挙により、令和7年度・8年度の石川県柔道整復師会を牽引する理事の皆さんが決定した。

今総会で退任された堂本前副会長、山田前理事より、本誌にご挨拶を寄せて頂きました。

「お陰さま」で、四半世紀を 本会の歴史とともに



堂本 義邦

このたび、第50回定時総会をもって役員を退任することとなりました。

平成11年に故木山時雨特別顧問よりお声掛け頂き、理事就任から26年が過ぎました。在任中は

能登支部長、経理部長、総務部長、副会長、ブロック会事務局長等を務めることで見識を広めさせて頂きました。

中でも印象深いのは赤十字奉仕団の設立です。奉仕団の一員として東日本大震災のボランティア活動に参加した際の衝撃は一生忘れ得ぬ経験となりました。またサポート接骨石川(S S I)設立後のスポーツ選手の救護やケア活動、「あなたの町の接骨院」、「子ども110番」、公益社団法人への移行、会員証看板・襟章の制作等々、様々な活動や行事がありました。未曾有のコロナ禍を経験し、そして昨年1月1日の能登半島地震です。会員の被害も甚大でしたが、会としての支援にも限界があり無念でありました。

こうして、当会の歴史の中の四半世紀に会務を通して携わってまいりました。時代は常に変化しています。そして人は老いていく。時代の風に乗りながら患者様に向き合う柔軟な感性と、一方で絶対に揺るがない確固たる柔道整復師としての理念をヤジロペーのようにバランスをとりながら、風通しの良い柔道整復師会であってほしいと願っています。

長きにわたり会員の先生方、役員、事務職員の方々に温かく支えて頂き本当にありがとうございました。本会の発展と皆様方のご健勝、ご活躍を祈ります。

活動の歴史・記録が 次の100年の礎となれば

理事を退任するにあたりご挨拶を申し上げます。理事を22年間務めさせて頂いたほか、日整の仕事に18年間も携わることができました。このように長きにわたり務めることができたのは歴代会長、役員の皆様、諸先輩方、会員の皆様、本会事務局員の方々のご指導、ご支援のおかげと深く感謝申し上げます。

東日本大震災・能登半島地震の救護活動をはじめ多くの事業を会員の皆様と共に行ったことを懐かしく思います。皆様や先達が苦勞して活動された事業が広報誌や記念誌に記録されていくわけですが、それをホームページに掲載しいつでも閲覧できるようにしたいと願っていました。皆様のご協力と歴代の理事の先生方のご尽力により、本広報誌の創刊号(昭和54年6月)から最新号まで、本会で初めて発刊した記念誌(昭和51年11月)から創立90周年記念誌までの掲載を任期中に実行できたことは、大きな記念となりました。また、今年行われる100周年記念事業につなげることができうれしく思っています。

今後は一会員として理事を支え、本会の発展のためにお役に立てるよう微力ながら励みたいと思います。皆様の益々のご健勝と本会の発展を祈念し退任の挨拶といたします。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

永年にわたり、本会の発展のためご尽力くださったお二人に深く感謝申し上げます。



山田 俊志

公益社団法人石川県柔道整復師会では施術者としてのスキルに磨きをかけるため様々な講演会、研修会を実施しています。

公開学術講演会

開催日 ■ 令和7年2月16日(日)

会 場 ■ 金沢港クルーズターミナル

大規模災害に 必要とされる医療 ～生活不活発病について～

講師／公益社団法人石川勤労者医療協会
金沢城北病院院長 **齊藤 典才**先生

齊藤先生は能登半島地震発生直後に石川県JMAT調査本部長に就かれ、災害関連死を防ぎたいとの思いで活動されました。その経験をもとに、我々柔道整復師が被災地や避難所で救護活動をする際は行政やJMATと連携し情報を共有することがいかに重要か、過去の大規模災害の事例をあげながら説明してくださいました。



PROFILE

1991年、金沢大学医学部を卒業し城北病院に勤務。2010年、石川県医師会理事に就任。令和6年の能登半島地震では、石川県JMAT（日本医師会災害医療チーム）の調整本部長を務め、被災地域の医療機能回復や被災者救済に尽力される。

I 能登半島地震におけるJMAT活動

大規模災害や多傷病者発生事故が起きるとまず被災地に入るのがDMAT（Disaster Medical Assistance）で、専門的な訓練によって急性期から活動できる機動性を身に付けた災害派遣医療チームです。一方、JMAT（Japan Medical Association）は日本医師会により組織される災害医療チームで、発災から3日程度で撤退するDMATと入れ替わるようにして被災地に入り、現地の医療体制が回復するまで地域医療を支える組織となります。

能登半島地震で私は、1月7日に石川県庁に設置された石川JMAT調整本部本部長に任命され、全国各都道府県からやって来るJMAT

隊を調整指揮することになりました。

この時期の能登北部から中部は余震が続き、断水、食料や灯油の枯渇等で1次避難者にとって命の危険もある状況でした。医療が必要な方、十分な介護が受けられない方々を金沢以南の病院や介護施設へ搬送する必要があり、急遽、広域避難が開始されました。しかし、この時点での調整本部は相当混乱しており、DMATや日赤の後を引き継いでの避難所巡回や被災した診療所の回復支援、金沢以南に設けた1.5次、2次避難所の支援などを同時に進めなければならない苦しい状況でした。そのような中、各地から集まったJMAT隊の方々は災害関連死を一人でもなくすという強い意志で活動してくれました。

- ・肺塞栓の既往があつて酸素濃度が低く、新規の大動脈弁狭窄症のため心不全を起こした被災者を救急搬送(福島JMAT隊)
- ・輪島市の老人施設に入り、褥瘡を処置(徳島JMAT隊)
- ・一日でも早い診療所再開をと、輪島市内の診療所の復旧作業にあたる(鹿児島JMAT隊)

J M A Tの役割は地域医療を実践している医師の力を被災地医療につなげ、行政と連携しつつ地域医療を守るための継続的な支援体制を構築すること。それを前提に職務を遂行することが重要です。

2016年の熊本地震では、災害関連死という言葉がクローズアップされました。亡くなった方の81%が災害関連死で、能登半島地震もこれに近い数字になると思われます。災害関連死は災害による負傷の悪化や避難所生活による身体的・精神的負担によって引き起こされるものであり、避難所がかかわると災害関連死と判断されるというふうに定義が変わってきています。

[illegible]

講演会当日、被災地への給水支援で活躍した巡視船のとが、金沢港クルーズターミナルの埠頭に停泊していた。

エコノミークラス症候群の発生機序の ①血栓ができる ②血流で血栓が移動 ③血栓が肺に詰まるという段階のうち、①から②で見つければ命にかかわることになる。能登半島地震におけるDVT検診では、避難所の避難者にアンケートを記入してもらい、エコー検査を実施。血栓がなくても問診でリスクのある人や軽微な血栓の人には弾性ストッキングなどで対応し、“ヤバイ”人には血液検査を行います。その結果によって、弾性ストッキングでいいか、医療機関に送るのか、救急搬送すべきかを判断します。避難施設から仮設住宅に入居する頃に再び血栓保有率が高まるというデータも出ており、DVT検診が重要なのは発災当初だけではなくありません。

段ボールベッドが早期に導入された能登町では最初の3か月の陽性率が一番少なかったそうです。柔道整復師の皆さんが避難所を廻る時は、避難所の環境が被災者の健康を左右することも頭に置いておいて頂きたい。車中泊や狭い避難所に長時間いることに起因する血流の停滞、水や食料の不足、トイレを我慢するための飲水制限などは危険視すべきこととして挙げられます。

避難所で活動する時、被災者一人ひとりに説明するための資料として厚生労働省ホームページの「エコノミークラス症候群の予防のために」というリーフレットや日本静脈学会の災害対策サイトにある配布用パンフレットを活用するといいと思います。



Ⅱ 生活不活発病にさせない避難所生活

災害時に生活不活発病が多発することは新潟中越地震から知られるようになりましたが、それに対する認識と対策が不十分であることは能登半島地震の報道を見ても明らかです。阪神淡路で言われた「防ぎうる死亡」に加えて「防ぎうる生活機能低下」にも目を向けていかなければなりません。

健康とは疾患病弱の有無でなく身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることです。環境因子・個人因子・健康状態などにより生活不活発病は発生しますが、家の倒壊で避難所生活が始まって社会活動から遠ざかり、活動の機会も減少し…といったプロセスで、心身機能の低下(生活不活発病)につながっていく。例えば、高齢の男性によく見られるのですが、アルコールに依存し部屋にビール瓶がたくさんあるような人などは要注意です。

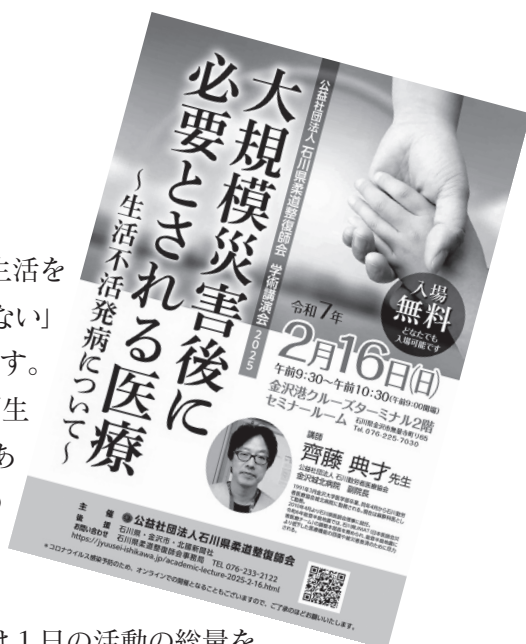
厚生労働省のホームページにある「生活不活発病チェックリスト」で要注意、要配慮者を見つけて避難所の責任者に知らせるとともに、支援に入っている保健師さんとも情報を共有して継続して見守るような活動が必要です。

災害の実態調査から生活が不活発になる理由として「することがない」「環境の変化」「遠慮

があり、避難所生活を「動かない」「動けない」ものになっています。予防・改善策は「生活の活性化」であり、被災者自身の参加を重視してください。

一時的な運動は1日の活動の総量を上げるには十分ではありません。生活不活発病は心身のあらゆる機能が低下するので、下肢の筋力低下予防など身体の一部に働きかける運動では効果が乏しいのです。生活全体を自然に活発化させるような社会参加、家事への従事などが有効で、避難所の運営を一緒に行う、食事を作る手伝いをする、また、避難所周囲の片付けできれいになる喜びを共有しながら自立していくことなどが効果的でしょう。

最後に、災害支援には一定の期間が必要であると齋藤先生。「決して自分一人ではできませんので、申し送りをしながら常に被災者に寄り添った支援が必要です。自分の都合に左右されない、仲間に対応できる仕組みを今後の災害対応に生かしていくことが重要です」と述べられました。



第30回日本災害医学会・学術集会記念大会 能登半島地震での救護活動を報告

令和7年3月6日(木)から8日(土)の3日間、名古屋市国際展示場において第30回日本災害医学会・学術集会記念大会が開催されました。

日本災害医学会は、災害時に医療に携わる医師、看護師、救急隊員のほか各職種の個人や研究者、災害医療や防災業務に携わる組織が参加する学会です。

3,100名を超える参加者が集った会場で、本会の川上勝災害対策室長が「令和6年能登半島地震における柔道整復師による災害救護について」ポスター発表を行いました。



参加者の質問に答える川上室長(左)。

会員学術研究発表会

開催日■令和7年2月16日(日)

会場■金沢港クルーズターミナル



棒体操に適した大きさの丸い棒を探すことに苦慮したと高熊会員。

「棒体操 伸ばす・ほぐす」

加賀支部 高熊 二夫 会員

長さ120センチの丸い棒を使って行う「棒体操」を考案し、自身で実践した動画をもとに説明。

丸い棒を肩に担ぎ体幹を左右に回旋する、棒を杖のように地面について背筋を伸ばすといったパターンをいくつか紹介しました。肩関節や肩甲骨の可動域の拡大、頸部、背部、腰部の伸張を目的としたこの体操では、円背などの改善にも期待ができると考察。室内で手軽にできる棒体操を実践し、広めて頂きたいと発表を締めくくりました。

なお、高熊会員の研究発表は、6月29日(日)に福井市で行われる北信越ブロック学術大会で石川県代表として発表されます。



発表後にニッ谷会長(左)より表彰状が授与された。

各講習会

開催日■令和7年3月16日(日)

会場■柔整会館 研修室

施術の質を高め、柔道整復師として活躍できる場を広げるため、午前と午後、それぞれ違うアプローチで講習会を開催しました。

午前の部

日本柔道整復師会主催 「匠の技」技術講習会

今回の「匠の技」技術講習会のテーマである橈骨遠位端骨折について、日本柔道整復師会(以下、日整)からの音声動画による、解剖・触診・発生機序・症例画像の説明の後、本会の西剛志学術部長より合同実習と観察法評価についての説明がなされました。

次に、4名の「匠の技」石川県指導者による超音波観察装置の取り扱いや、橈骨遠位端骨折観察方法の背側長軸・短軸像、撓側長軸・短軸像、



西学術部長が観察法評価を説明。

掌側長軸・短軸像の詳細な説明の後、受講者が4つのグループに分かれ、本会学術部員による橈骨遠位端骨折の整復・固定施術の技術実習が行われました。



午後の部

学術部(介護対策委員会)主催

第2回 機能訓練マニュアル講習会

介護対策委員による機能訓練の座学と実技の後、西剛志介護対策室長より、身体フレイル・認知症フレイルの参入についての提案がなされました。最後に、濱亮輔介護対策委員から施術所内で行うことができる機能訓練の実技指導が行われ講習会は終了しました。これからの施術所での業務や災害現場での応急処置に役に立つ

内容であり、参加した会員は皆、熱心に受講していました。



日整「匠の技伝承」プロジェクト 指導者養成講習会を受講

日整は柔道整復術公認100年記念事業の一環として、伝統医療継承を目的とした実技研修を各地で行っています。後世に継承できる確かな知識と技術を持った柔道整復師の育成には質の高い指導者が必要であり、2021年から「匠の技」指導者養成講習会を開催しています。

令和7年4月13日(日)東京の日本柔整会館において開催された2025年度第1回講習会を本会の西剛志会員と浅居長太郎会員が受講しました。

参加県は北海道から岐阜までの24県(グル

ープ1)で、午前は集団講習、午後は個別評価試験が行われました。西会員は中足骨骨折と趾骨骨折、浅居会員は中手骨骨折と指骨骨折を担当し、それぞれが整復実技・固定・超音波観察装置についての試験を受け合格しました。



北信越学術大会

開催日 ■ 令和7年6月29日(日)

会 場 ■ ザ・グランユアーズフクイ



北信越5県から 327名が福井に集結

ワークショップ

日整「匠P T」の山口登一郎先生・小野博道先生、福井県会の学術部員による足関節捻挫、顎関節脱臼の整復固定と超音波観察装置の実技指導が行われました。

(公社)日本柔道整復師会(以下、日整)第45回北信越学術大会福井大会が開催され、特別講演会、会員研究発表、ワークショップが行われました。実技発表を含む6名による会員研究発表では、石川県から高熊二夫会員が発表を行いました。なお、前日の28日(土)には、開会式と夕食会が行われました。



▲ 整復固定実技

◀ 超音波観察装置実技

特別講演(一般公開講座)

9時45分より、福井大学医学部附属病院救急総合診療部教授の林寛之先生を講師に、「知って得する 救急のピットフォール」をテーマにご講演頂きました。多数の一般聴講者も訪れて会場



林先生はNHKの人気医療番組への出演でも知られる。

は満員に。救急の第一線で戦い続けてきた林先生が40年間の経験を踏まえ、柔道整復師が日々の業務の中で気を付けなければならない症例についてユーモアを交えながらお話しくださいました。

会員研究発表

「棒体操 伸ばす・ほぐす」

石川県柔道整復師会 高熊 二夫会員

長さ120センチの丸い棒を使用した棒体操を考案し、様々な体操のパターンを解説しました。室内でも手軽にできるこの体操を根気よく実践することで、肩関節、肩甲骨、頸部、背部、腰部が伸張され、円背などの改善にも期待を持てるとの考察を述べました。



高熊会員の発表では西剛志学術部長が座長を務めた。

会旗争奪少年柔道大会・少年柔道形競技会

全国大会の 切符をかけた戦いに 声援も熱く

(公社)石川県柔道整復師会主催の第38回会旗争奪少年柔道大会・第2回少年柔道形競技会が令和7年5月11日(日)、松任総合運動公園体育館柔道場(啓武館)で開催され、県下全域から17チーム83名の選手が参加しました。満員の観覧席から送られる歓声と熱気が選手達を鼓舞し、技と技がぶつかり合う熱戦が繰り広げられました。

本大会は「少年柔道を通じて心身の健全な育成に努めると共に親睦と友好を深め、少年柔道の振興とレベルアップに努める」という趣旨のもとで行われ、優勝チームには日整全国少年柔道大会・形競技会への出場資格が与えられます。

開会式では、この趣旨を踏まえて本会の二ッ谷剛彦会長が、「子どもたちが柔道を通じて健全な心技体を養い、大きく成長して、将来、社会の一員として貢献できる人材になってもらい

県下全域から83名の選手が集まった。

鶴来坂田道場の河村選手が元気に宣誓。

たい」と挨拶を述べました。次に、選手を代表して鶴来坂田道場の河村圭悟選手が選手宣誓を行い、試合開始となりました。

試合はトーナメント方式で行われ、各チームが総力戦を繰り広げた結果、決勝は全日本柔道少年団小松分団と邑知少年柔道教室の対戦となりました。大歓声の中、互いに全力を尽くして戦った結果、全日本柔道少年団小松分団が邑知少年柔道教室を5-0で下し2年連続の優勝を果たしました。

また形競技会には6チームが出場し、日頃から鍛錬した技を競い合いました。各チームとも競技レベルが上がっており僅差の戦いとなりましたが、鶴来坂田道場の丸山・中島選手が優勝を飾りました。

団体戦

団体戦で大活躍だった優秀選手の皆さん。

優勝	全日本柔道少年団小松分団
準優勝	邑知少年柔道教室
3位	松任柔道スポーツ少年団
3位	窪田柔道倶楽部
最優秀選手	廣田 菜々花(小松)
優秀選手	嶋中 環奈(小松) 酒井 暖佳(邑知)
	中山 永宝(松任) 川端 俊介(窪田)

形競技会

形競技優勝ペアの息の合った演技。

優勝	鶴来坂田道場	取・丸山 莉歩	受・中島 慶人
準優勝	犀川柔道教室	取・寺井 行玖	受・山田 廉祐
3位	全日本柔道少年団小松分団	取・寺田 美空	受・宮越 大雅

(公社)日本柔道整復師会
北信越ブロック
柔道大会福井大会

窪田会員が 30歳代以下の部で 優勝を飾る

令和7年6月28日(土)、福井県立武道館にて第45回北信越ブロック柔道大会が開催され、石川県から50歳以上の部に小倉弘行会員(金沢北支部)、30歳代以下の部に窪田和樹会員(金沢南支部)が出場しました。

熱戦の末、窪田会員が見事優勝を果たし、惜しくも決勝戦で敗れた小倉会員も準優勝と大健闘を見せました。なお、30歳代以下の部に優



50歳以上の部
の小倉会員も大健闘!



勝した窪田会員は、11月16日に開催される全国大会に出場します。

全国大会の石川県 代表選手が出揃いました!

11月16日に東京講道館で開催される日本柔道整復師会全国柔道大会に会期争奪少年柔道大会・形競技会、北信越ブロック柔道大会の優勝者が出場します。皆さん、応援をお願いします!



日整
全国柔道大会
出場

30歳代以下の部
窪田和樹会員

日整全国少年
柔道大会出場



全日本柔道少年団小松分団

日整全国少年
形競技会出場



鶴来坂田道場
(取・丸山 莉歩 受・中島 慶人)

第31回

石川県柔道整復師協同組合 通常総会を開催

組合員数／ 271 名
出席者数／ 70 名
委任者数／ 141 名
欠席者数／ 60 名

令和7年5月18日(日)午後1時40分より石川県地場産業振興センターにおいて、第31回石川県柔道整復師協同組合総会が開催されました。審議を前に挨拶を行った橋本



相互扶助の精神を大切に運営にあたりたいと橋本理事長。

大衛理事長は「本年は11月に石川県柔道整復師会創立100周年、社団設立50周年、協同組合設立30周年の記念式典が行われる大事な年で、組合員、指定業者の皆様とともに事業を盛り立てていきたい。また3年に

1度のシュレッターサービスを10月に、組合指定事業者とのコラボ研修会も実施の予定で、組合の理念である相互扶助の精神のもと初心に帰って、組合運営に取り組んでいきたい」と抱負を述べました。

続いて、議長に野村泉太郎組合員が選任され、審議が行われました。



野村組合員が議長に選出された。

【議 事】

- 第1号議案** 令和6年度事業報告
担当／山崎 一平総務委員長
- 第2号議案** 令和6年度収支決算報告及び損失処理案並びに監査報告
担当／南野 立志財務委員長
監査報告／田村 修一監事
- 第3号議案** 令和7年度事業計画(案)



担当／山崎 一平総務委員長

第4号議案 令和7年度収支予算(案)

担当／南野 立志財務委員長

第5号議案 役員選挙規約一部変更(案)

担当／山崎 一平総務委員長

第6号議案 役員改選の件

担当／山崎 一平総務委員長

定款第30条第4項をもって、選挙を行わず8名の役員が選出された。

以上全ての議事承認が終了し議長が退席、閉会となりました。

また、今期をもって退任する理事3名と監事より挨拶がありました。



岡本透理事



藤田宏幸理事



南野立志理事



田村修一監事

長い間
ご苦勞様
でした

石川県柔道整復師協同組合 通常総会

◆第17期(令和7年・8年度)役員・委員構成

理事長 橋本 大衛
専務理事 津田 佳之
理事 山崎 一平・真酒谷 清・川上 勝
 赤池 央成・河村 三紀
監事 森本 忠夫

総務 委員長 赤池 央成
 副委員長 山崎 一平
 委員 中野 秀人・大内 康弘
財務 委員長 真酒谷 清
 副委員長 赤池 央成
 委員 木藤 正幸

購買促進 委員長 河村 三紀
 副委員長 川上 勝
 委員 桶谷 靖夫・木山 隆久
 谷村 力

福利厚生 委員長 山崎 一平
 副委員長 真酒谷 清
 委員 村 扶希子・吉田 宜正

教育情報 委員長 川上 勝
 副委員長 河村 三紀
 委員 北川 隆之・堀松 郁子
 中村 克章

選挙管理 委員長 三国 政樹
 委員 宇野 幸治・中越 昌人
 唐木 均・北浦 久
 藤森 優・北川 丈



新役員に選出された8名の皆さん。

協同組合主催物理療法セミナー

「プロ・アマアスリートサポートの実績に学ぶ」を実施



協同組合指定事業者やマグチメディカル様の紹介により、高橋氏の講演が実現した。

令和7年3月9日(日)石川県地場産業振興センターにて、高橋智士氏(酒井医療株式会社リハビリテーション推進部・札幌医科大学臨時講師)による物理療法セミナーが開催されました。

セミナー冒頭、高橋氏はトレーナー活動におけるリスクマネジメントに触れ、頸部外傷時の搬送や熱中症への対応を例に、新しい情報・知識を得て、様々なリスクの回避に役立てる必要性を説明されました。

セミナー前半はスライドを中心に電気療法・温熱療法の説明、後半の物療機器を用いた実技指導では、参加者をモデルに干渉波、ハイボルテージなど最新の機器を体験しました。数々の有名スポーツ選手やプロ・アマチュアチームのサポートをされている高橋氏の講演は、今後の施術に活かせる有意義な内容でした。



参加者をモデルに最新の機器を実技指導。

サポート接骨石川(SSI)活動

第74回 金沢百万石まつり

第74回金沢百万石まつりが令和7年6月6日(金)から8日(日)の日程で開催されました。本会の赤十字奉仕団・サポート接骨石川(SSI)は日本赤十字社石川支部の要請を受けて、7日(土)に行われた百万石行列と百万石踊り流しで救護活動を実施しました。

金沢百万石まつりでは毎年、学生をはじめ様々な職種の奉仕団が祭りの安全のために活動し



他業種との交流も生まれて。

ており、今年は総勢154名での実施となりました。本会からは金沢北支部会員の4名が参加し、転倒による打撲・擦過傷、熱中症(疑い)の方の手当

て、救急搬送時の進入路の確保等にあたりました。

本会の参加も今年で15回目となりました。各団体との交流が広がり、救護を通して現場で困っている方に喜んで頂ける有意義な活動となっており、今後も継続していきたいと思います。

今年は総勢154名で活動。



赤十字奉仕団として ボランティアに参加 輪島市内で泥上げ作業



きつい作業を黙々と。

令和7年1月18日(土)、昨年9月に発生した能登半島豪雨により甚大な被害があった輪島市内で、本会の日本赤十字奉仕団員3名が他の奉仕団とともにボランティア活動を実施しました。

参加者14名は日赤石川支部に午前7時に集合、ミーティングの後、日赤が準備した車5台で

輪島市のボランティアセンターへ向かいました。9時から当センターの説明を受けた後、軽トラックに道具を積み込んで現場に到着するとすぐに活動を開始。作業内容は、土砂で埋まった個人宅の周辺や田んぼの用水路の泥上げでした。大変な作業でしたが14名の協力でき、依頼主の方は土砂が取り除かれた用水路を見て喜んでいらっしゃいました。



任務完了!お疲れ様でした。

secret spot

あなたの知らない石川県

明るい誤字で大バズリ！ SNSで話題 巖門クルーズ

令和6年1月1日16時10分、震度7の大地震が能登を襲い甚大な被害が発生しました。あれから1年半以上が経ちテレビの報道も少なくなりましたが、あまりの被害に復興はまだまだ遠い道のりです。それでも一歩ずつ着実に、能登の人たちは前に進んでいます。震源地に近かった志賀町富来の観光地「巖門」に行ってきました。

「巖門」は、日本海の荒波が長い年月をかけて削り出した奇岩の数々で有名で、「鷹の巣岩」や「巖門洞窟」などは自然のアート作品として観光客からも人気です。地震で中止されていた遊覧船の運航が再開し、地上から見るできない迫力満点の景色を体験できるということで船着場に向かいました。石の階段を下りる途中、視界が開けて日本海を一望できます。きれいです。やはり能登の自然は美しい！しかし少し波があるのが気になり、船長さんに「今日は大丈夫ですか？」と聞いたところ、「大丈夫、大丈夫。これくらい慣れてるから」とのこと。

さらに地震の影響を聞いてみたところ、「ここは津波で船も被害を受けたけど、輪島や珠洲の方がもっと大変だったと思う。自宅も半壊だけどころか住めず、少しずつ落ちてきて七尾湾や九十九湾の

猛烈な波！沈没するんじゃないかと心配になるほど。



波は高そうだけど「本日運航」。

ルンルン気分で遊覧船乗り場へ。



観覧船も始まっているし、気兼ねせずに観光に来てほしいね」と、笑顔で答えてくれました。能登の人はやさしくて、たくましい。

しかし乗船した遊覧船は、絶叫マシンのように波でガンガン揺れ、手すりを掴むのに必死で観光どころではありませんでした。恐ろしや、巖門クルーズ。

そして1週間後、スマホでネットニュースを眺めていたら、突然「巖門」の文字が目に入ってきました。いったいなんだ？とよく見たら「能登半島地震で被害を受けた石川県志賀町の観光名所・巖門クルーズ。SNSでの投稿が、まさかの形で大バズり!!」とのこと。発端となったのは、7月5日(土)に巖門クルーズの公式Xアカウントが投稿したとあるお知らせでしたが、その中に信じられない単語が…。

巖門クルーズ 能登金剛遊覧船 【公式】

能登金剛遊覧船

【現在運航を見合わせ中】

思ったより、高潮と波でうんこを見合わせています。

大バズリした巖門クルーズ、行くか行かないかはあなた次第です。

トピックス①

各支部で保険講習会を開催 ～日頃の疑問を解決する良い機会にも～

今年度の保険講習会が開催され、令和6年度料金改定、明細書発行の義務化、オンライン資格確認、マイナンバーカードなどについて説明がありました。今年度も令和6年12月1日(日)から令和7年1月19日(日)にかけて県内4支部



真酒谷清保険部長

が3つの会場に分かれての実施となり、真酒谷清保険部長と西川典孝保険担当副会長が講師を務めました。

各講習会ではまず真酒谷清保険部長が、令和6年度料金改定、各審査会からの注意事項、明細発行の義務化などについて詳細に説明を行いました。次に西川典孝保険

担当副会長がオンライン資格確認、マイナンバーカードについて説明し、京都市左京区に建立された「柔道整復」記念碑について写真を交えながら紹



西川典孝保険担当副会長



能登支部

日時: 令和6年12月1日⑨午前9時30分から
会場: 能登食祭市場2階「パーラー能登」

加賀支部

日時: 令和6年12月22日⑨午前9時30分から
会場: 小松市第一地区コミュニティセンター

金沢南支部

金沢北支部合同

日時: 令和7年1月19日⑨午前9時30分から
会場: ホテル金沢

介しました。

各支部とも多くの会員が講習会に参加し、講義終了後に設けた質疑応答の時間では、マイナポータルサイトやその他、日頃の業務の中で疑問に思っていることなどについて活発な意見交換がなされ、大変有意義な保険講習会となりました。



新入会 員 紹介

ようしくお願いします!



能登支部

令和7年7月17日入会

二又 開 (ふたまた かい)

生年月日 平成2年8月20日
出身校 静岡医療学園専門学校
住所 鳳珠郡能登町柳田礼部5番8号
接骨院名 二又接骨院
電話 0768-76-0027
特技・趣味 狩猟・魚釣り、犬・猫・めだかの飼育

令和7年・8年度 各部一覽

渉外部	部 長	西川 典孝	保険部	部 長	真酒谷 清
	部 員	二ッ谷剛彦 津田佳之		部 員	二ッ谷剛彦 西川典孝 津田佳之
総務部	部 長	川上 勝	広報部	部 長	森田 一哉
	副部長	山田 誠		副部長	中川 渉
	部 員	小倉弘行 坂田浩之 波佐谷兼潤 河村三紀 角浦大介		部 員	中野秀人 太田信幸 平林祐一 森陽一朗 吉田宜正
経理部	部 長	山田 誠	事業部	部 長	中西 勝
	副部長	西 剛志 中西 勝		副部長	大平和幸 中川 渉
学術部	部 長	西 剛志		部 員	折越幸夫 北浦健司 竹野敬治 赤塚大輔 月田考紀
	副部長	大平和幸			
	部 員	磯松俊也 高橋真哉 堀松郁子 中村克章 浅居長太郎			

令和7年・8年度 各委員一覽

法制委員会 委員長 真酒谷 清		サポート接骨石川（SSI） 委員長 中西 勝	
副委員長	川上 勝	副委員長	真酒谷清 川上 勝 西 剛志 山田 誠
委 員	田村修一 山崎一平	委 員	森田一哉 大平和幸 中川 渉
生涯学習委員会 委員長 西 剛志		日本赤十字奉仕団 委員長 二ッ谷 剛彦	
副委員長	大平和幸	副委員長	西川典孝 津田佳之
委 員	磯松俊也 高橋真哉 堀松郁子 中村克章 浅居長太郎	分 団 長	真酒谷清（金沢北） 川上 勝（金沢南） 西 剛志（加 賀） 山田 誠（能 登）
裁定委員会 委員長 板橋 透		副分団長	大平和幸（金沢北） 中川 渉（金沢南） 森田一哉（加 賀） 中西 勝（能 登）
委 員	野村胸勝 木山隆久	IT委員会 委員長 山田 誠	
選挙管理委員会 委員長 三国政樹		副委員長	大平和幸
副委員長	中越昌人	介護対策委員会（機能訓練・フレイル予防） 委員長 西 剛志 担当副会長 西川典考 津田佳之	
委 員	宇野幸治 中野秀人 金谷由久 坂下竜彦 大内康弘 木村喜久男 折越幸夫 作川清隆 俵 大輔	副委員長	大平和幸
健康やわら体操普及委員会 委員長 中川 渉		委 員	理 事 濱 亮輔 窪田和樹 森川達也

❖前期に引き続き、広報部長を務めさせて頂くことになりました。今年から広報誌「ビバ・シティ」は、年2回から年1回発行へとスタイルが変わりました。ページ数や内容の密度をより意識するようになり、編集の手応えも一段と増えています。

最近ではニュースでも「コメ不足」が話題ですが、「誌面づくり」もまた、素材選びと分量のバランスがなかなか難しいところ。あれも載せたい、これも伝えたい…と悩みながら、最後は「ちょうどよい一杯」に仕上げるのが腕の見せどころだと感じています。会の動きをできるだけ身近に、そして読んで楽しい広報誌にするため、工夫を重ねてまいります。皆さまからのご意見やアイデアもお待ちしておりますので、どうぞ気軽にお声かけください。これからもよろしくお願いいたします。

(森田 記)

❖今年の夏は何と言っても「暑い」の一言に尽きます。よくテレビ・雑誌等で「猛暑」や「酷暑」というフレーズを見聞きするのでネットで調べてみると、「猛暑(日)」とは1日の最高気温が35度以上の日となっており、「酷暑(日)」については、気象庁では定義されていないとのこと。医療用語でも「メタボ」などは世間で何気なく使用され、ただ太っていることと混同されがちです。意味は通じるが定義は曖昧なものがたくさんあるので、注意が必要ですね。

(中川 記)

❖縁あって和太鼓のコンサートに行きました。小学生から高校生で構成される若者たちのグループでチーム名は「和太鼓サスケ」。2本のバチで膜を叩き、そこから発する音は雷鳴のごとく会場を震わせ、聞く者の鼓膜のみならず皮膚や横隔膜をも共鳴させる勢い。私にとって和太鼓の音はなにか神憑って聞こえ、神の力を再認識させると同時に戒めを与えるように感じます。和太鼓に限らず、打楽器には聞く人をトランス状態にさせる何かがあるのでしょうか。

(太田 記)

❖接骨院のベッドでうたた寝をして顔から落ち、眼窩骨折をしたボンコツ野郎はどこのだいつだ？私だよ！おかげで少年柔道大会も総会も出席できず、広報部の皆様にご迷惑を掛けてしまいました。昔、「前田日明」の顔面キックで「長州力」が負った眼窩骨折を経験する時が来ようとは思っていませんでした。「自宅でケガをするようになれば一人前の高齢者」の言葉を忘れず、長生きできるように頑張ります。

(中野 記)

❖金沢百万石まつりに行ってきました。今年の行列を見ていて、利家公の勇ましさやお松の方の煌びやかさも素晴らしかったですが、中でも私が一番印象に残ったのは最後尾の飯田高校によるキリコでした。生徒や卒業生が太鼓や笛の演奏とともに笑顔で一生懸命に担いでいる姿を見て、胸が熱くなりました。能登の祭りの一端に触れることができ、人の底力を感じました。

(平林 記)

❖連日の猛暑の影響か、馴染みの飲食店と間違えてよく似た店名の車屋に入店してしまい、大恥をかきました。暑さによる思考能力の低下か？と思うほど、毎日のように猛暑のニュースがテレビでも取り上げられています。さて、気づけば令和も早や7年。お米の値上がりや諸物価高騰などあまり明るい話題はありませんが、元気ある日本、楽しい日本を目指すべく微力ながら社会に貢献し、毎日に感謝しつつ努力したいと思います。

(森 記)

❖今期より広報部員をさせて頂きます、加賀支部の吉田宜正です。文章作成および編集業務、写真撮影などやることがいっぱいです。たまに拙いFacebookを挙げるぐらいの自分に広報部が務まるのか不安しかありませんが、先輩の先生方に教えて頂きながら「小さなことからコツコツと！」をモットーに頑張っていこうと思います。

(吉田 記)

ビバ・シティVOL.35 石整広報121

(2025年9月20日発行)

■発行所／公益社団法人石川県柔道整復師会
石川県金沢市広岡2丁目3-26
TEL076-233-2122(代) FAX076-233-2196
E-mail ishiju@spacelan.ne.jp

■発行者／二ッ谷 剛彦

■編集者／西川 典孝・森田 一哉・中川 渉・中野 秀人
平林 祐一・太田 信幸・森 陽一朗・吉田 宜正





公益社団法人 石川県柔道整復師会

石川県金沢市広岡2丁目3-26

TEL076-233-2122(代) FAX076-233-2196

E-mail ishiju@spacelan.ne.jp

URL <https://jyuusei-ishikawa.jp>



撮影 能登支部 中野 秀人 会員
使用カメラ:NIKON D7200
レンズ:ニコンAF-S 24-120mm
絞り:f/9 露出:1/800
ISO:400
焦点距離:110mm

【奥能登金剛遊覧船 巖門クルーズ】

地震被害を乗り越えて、巖門、七尾湾、九十九湾の3つの遊覧船が再開されたのは能登にとって明るい話題となりました。

乗船した日の「巖門遊覧船(志賀町)」は、波で船が揺れすぎて写真はピンボケ、私は船酔いでグツタリ。それでも帰り道で振り返って見た「巖門」の海の透明度に驚き、思わずシャッターを押した一枚です。やはり能登は美しい。